



牛澤 栄一

横澤 敏

鈴木 義明

鈴木 亮

# ふるさと 地域と教育～将来、致芳を思える“人財”づくり

## ～「Beyondちほう2020」の成果と課題を本音トーク～



我ら  
致芳人!

Part ⑤

今回は、新型コロナウイルス感染予防対策として、広く地域住民をお呼びして開催していた「明日の致芳を語る会」に代わり、令和2、3年度の2ヶ年にわたり取り組んだ「Beyondちほう2020」の成果と課題についてプロジェクトメンバーの皆様にお話を伺いました。

聞き手:平 みわ(致芳コミュニティセンター地域交流部会副部会長)



—まずは、2年間取り組んでみての感想を—

(横澤) 今回のプロジェクトは、「コミセンの文部科学大臣表彰の受賞と小学校の創立100周年をきっかけとした事業だった。これまでも小学校とは連携した事業を展開してきたが、こう言った慶事を機に、これまで先人が築き上げてきた「和致芳」の精神や「致芳を愛する心」を振り返り、今後、どのように伝えていくかを考えることができた。コロナ禍ではあったが、地域の皆さんに声掛けし、学校行事への協力や登下校の見守りの強化などができたことは大きな成果。

(鈴木(義)) 学校の玄関に「Beyondちほう2020」の看板やのぼりを掲げた。パッと目を引き、来校されたお客様から質問もあった。他校からは、「致芳頑張っているな。勢いがあるな」という評価を受けている。コロナ禍ではあったが、学習発表会のライブ配信や学年行事へのサポートなど、多くの地域の方々の協力と見守りのおかげで子ども達が恩恵を受けた。また、「コミセン事業には、子ども達が参加し、これまで以上に、「コミセンと学校がWin-Winの関係性となった。新型コロナウイルスの流行によって2カ月間も、校舎に子ども達の声が聞こえなかった。そんな中でこのプロジェクトは本当に有難かった。

(牛澤) このプロジェクトを始める時に、子ども達の前で「コロナに負けずに頑張る君たちを全力で応援する!」と宣言した。そのシーンが一番印象に残っている。我々が抱えている「致芳愛」をどのように伝えるか、プロジェクトメンバーで議論を交わした2年間だった。思い入れがある分、やりがいを感じることができたプロジェクトだった。